

第1回加賀市再生プロジェクト検討会議事録(要約版)

1 開会

2 市長あいさつ

検討会開催にあたり、山田市長からあいさつした。

3 委嘱状交付

あらかじめ机上に配布する形式で委嘱状を交付した。

4 委員紹介

事務局から、名簿に基づき各委員を紹介した。

5 会長の選出

委員の互選により、三浦委員が会長に選出された。

6 諮問について

山田市長から三浦会長に諮問書が手渡された。

7-(1)(2) 再生プロジェクト検討会の目的・進め方および加賀市の現状について

本検討会の目的・進め方、市が直面する人口減少・基金の減少といった状況を説明した。
(資料1及び資料2)

【山口(美)委員】

- 検討視点の「持続可能性」について、財政視点が含まれるなら、財政当局の関与はあるのか。
- 非常にタイトな日程だが、32施策すべてを審議対象と理解してよいか。
- 答申後の「再生実行連絡会」がどういうふうに移働していくのか。

【事務局】

- 財政部局は直接参加していないが、意見は市内部で情報共有し、確認しながら進める。
- 32施策すべてが検討対象
- 再生実行連絡会は市内部で施策を実行する組織
- 4月以降の検討会の在り方については、市の様々な会議体との再編も含め検討する。

【河西委員】

- 「インパクト」「透明性」の指標が曖昧なままだと議論が迷走する。KPIや影響対象(社

会、産業界など)を明確にすべき。

- 事前資料共有など、会議外での検討ができる形での情報提供を求める。

【水口代理】

- デジタル目安箱・タウンミーティングの意見はどう扱われるのか。また、現状では市民に浸透していない。周知方法の工夫を検討されたい。
- 財政調整基金 18 億円の回復とさらなる投資の実行は矛盾しているように見える。

【事務局】

- デジタル目安箱等の市民意見は、対応可能なものから既に着手中。再生プロジェクト関連分は整理して提示予定
- 財政回復と投資は相反するところであり、市としても意識しながら進めたい。一方で、注力すべき分野などについて意見をいただきたい。

【三浦会長】

- ゴール (KGI) と視点 (KPI) を明確にすべき。
- 答申後の施策の実行状況を誰がチェックするかも重要

【田向委員】

- 財政調整基金が 10 年で大幅に減少した理由は何か。
- 毎年 10 億円程度減少しているところで、基金 18 億円を維持・回復しようとする、例年使っていた予算がつかえないというイメージか。

【事務局】

- 基金の減少は、新幹線関連投資、子育て支援、コロナ対応が主因
- 「予算」があり、その範囲の中で使うことになる。基金 18 億円は目標であり、予算編成の中で考えていくもの。

7-(3) 施策項目の仕分けについて

事務局から、市長公約に基づく 32 項目を A (即着手)・B (要検討)・C (慎重判断) に分類し、議論の優先順位をつける枠組みを示した。

【西出委員】

- 32 項目はすべて市長がこうしたいと考えているものと捉えてよいか。
- 各施策の詳細説明資料が不足している。別に説明はあるか。

【山口 (美) 委員】

- 本日は、まず A 評価のものを議論していくが、優先順位とは別のものと捉えてよいか。

【事務局】

- 選挙時の公約について、現時点で市長の考え方が変わったものもあるが、一度すべて議論してもらうための整理
- 資料3のほかに用意しているものはない。議論にあたって必要な点があれば、別途整理させていただく。
- 各施策項目について、いろいろ捉えることができるものもあるので、それをどういう内容にするのが適当かという点も含め、意見をいただきたい。
- 本日は、優先順位とは別ものとして議論いただきたい。

7-(3)-2. A 評価項目の個別審議

※以下は、原則、項目番号順に整理しており、発言の順番とは異なる。

① スピーディーに声が届く、かわりやすい身近な政治

No.2:デジタル目安箱の設置

【河西委員】

- ユーザーエクスペリエンスリサーチの界限では「ユーザーの声を聞きすぎてはならない」という鉄則がある。デジタル目安箱の意見について、誰の声なのかを精査せず政策に反映すると判断を誤る可能性があるため、民意の扱い方を慎重に設計すべき。

【三浦会長】

- タウンミーティングは既にも実施されているが、運用方法や、何が課題として見えてきているのかを整理すること。

No.4:市の財政・予算の透明化

【三浦会長】

- 「どこまで」「何を」公開するのかの線引きが課題

② 子供に幸福、県ナンバーワンの教育都市の実現

No.8 図書館の老朽化対策・蔵書充実 No.9 学校給食の質の確認、改善

【西出委員】

- 蔵書の充実や質の向上といった表現が抽象的で、どの程度の改善を想定しているのか分からない。

【山口（美）委員】

- 蔵書充実と老朽化対策が一体でA評価になっている点に違和感

【山口（忠）委員】

- 財政規律の見地からすると、人口動態を踏まえて、山中図書館を廃止し、中央図書館に集約して、充実を図る方向で考えるべき。公共施設マネジメントの観点が重要である。
- 将来的には一本化を視野に入れ、財政規律を優先すべきではないか。

【河西委員】

- 蔵書の物理的な増加もあるが、元々ある情報へのアクセシビリティ向上を図ることが、世の中の傾向。集約した上でそれを図る方がコスト面でも効率的
- これらや、新しい本の補填と老朽化対策が二項対立したときにどう考えるか。

【三浦会長】

- 建替えや施設整備を含めると短期で実行可能な施策とは言い難く、長期的なビジョンと財政負担を前提に考える必要がある。
- 蔵書の充実について、本は時間とともに陳腐化するため、紙の蔵書を増やすこと自体が本当に有効か再検討が必要。デジタル化やアクセス性向上の視点も欠かせない。

【事務局】

- 蔵書の充実に関しては、一定の予算措置があれば可能であり、すぐに着手できるものとの評価。一方、老朽化対策は、そのレベル感もいろいろあり、差がある。

No.9 学校給食の質確認・改善

【三浦会長】

- 教育施策として単独で考えるのではなく、農業政策（地産地消）と結び付ける発想もあり得る。

No.15 学力評価と学力データの市民公表

【三浦会長】

- プライバシーの問題や学校間の序列化につながる危険性が高く、高等教育機関でも非常に慎重に扱われている点を踏まえ、検討が必要である。

No.16 保育料・給食費無償化の継続

【三浦会長】

- 最終的には財政余力の問題に帰着するため、評価と実施判断は切り分けて考える必要がある。

教育に関する事項

【河西委員】

- A 評価に教育分野が多い点について、教育の地番形成やそれに対する投資と、将来的な生産年齢人口の創出や産業・雇用との接続が見えにくい。

- 教育環境の充実が「暮らしやすさ」だけで終わり、経済規模拡大につながらない懸念がある。

【乾委員】

- 教育保育分野の施策が、教育移住の促進を狙ったものなのか、それとも既存の加賀市の子どもたちの幸福度向上を目的としているのか、どちらを目指すものか。

③ 医療福祉・交通・防災の質を高める

No.26:全世代の女性の健康増進

【水口代理】

- 「全世代の女性の健康増進」とあるが、内容に具体性がなく、判然としない。

【山口（美）委員】

- 具体的に今後こういった施策をするといった考えがあれば教えてほしい。
- 「全世代の女性の健康増進」は、身体面に限らず、精神面、経済的自立、定住意欲など多面的な意味を含むはずであり、即効性のあるA評価とするのは理解しがたく、討議が必要である。

【林委員】

- なぜ対象が女性だけなのか。男女共同参画の視点から疑問あり。

【河西委員】

- 健康増進という表現が、具体性に欠ける。この抽象度の高い言葉を分解して構造化しないと、議論が分散したり、何をもって方向性とするかが定まらなくなってしまう。

【三浦会長】

- フェムテック（福井県坂井市の取組）や働きやすさの改善など、具体的な切り口次第では実効性のある施策になり得る。

議論の進め方等について

【廣瀬委員】

- A評価施策を含め、当日の資料配布と即時議論では論点が散漫になる。
- 各施策の課題や論点を事前に整理・共有した上で議論すべきであり、進め方自体の改善が必要

【三浦会長】

- 全体として、A評価項目は「すぐできるか」だけでなく、実行後に検証可能か、持続性があるかという視点が不足している。
- 次回会議に向けては、事務局には準備をお願いしたい。事前資料を配布した上で、踏み込んだ議論を行う必要がある。

【事務局】

- 議論の構造化や分かりやすい情報提供、資料の事前配布について、次回の議論に向けて改善を図る。

8 その他

9 閉会

事務局からの事務連絡